

# un-secret base

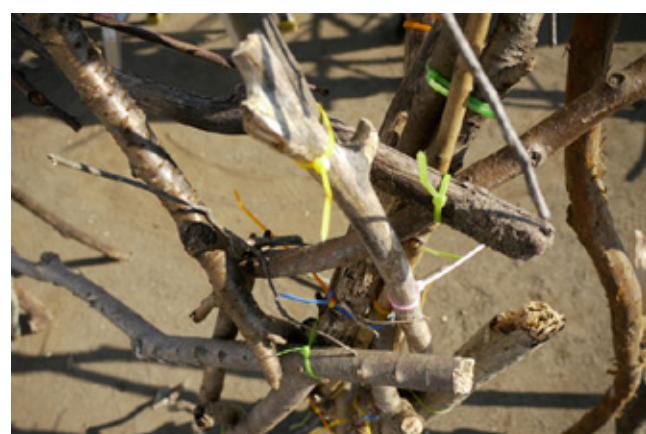
TOKYO DESIGNERS WEEK2011 東京都明治神宮外苑絵画館前 2011.11 参加学生：7名



## 台風 16 号で落ちた枝「ありもの」を 集めてつくる秘密基地

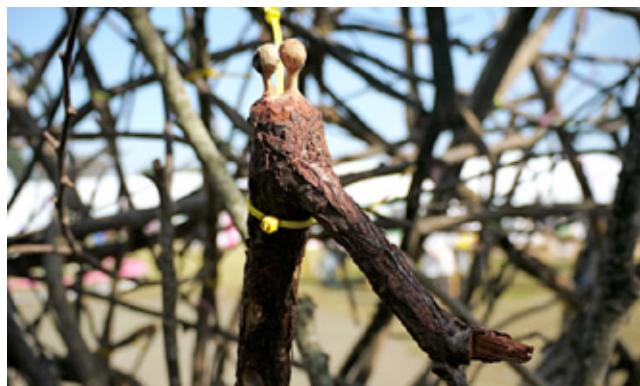
農閑工芸では、身近な素材「ありもの」を造形の素材としてきた。

このワークショップと発表では、台風 16 号によって落とされた木の枝を素材にして、構造物を制作する試みを行った。枝と簡単に枝を結ぶことができる結束バンドのみで構成される。簡単な方法を採用して、複数の制作者が関わることができた。





プレゼンテーション



農閑工芸は、雪深い地域で発展してきた。

冬の現金収入の為ではあるが、長い冬を乗り切るために、手を動かしものを作るという行為自体も必要であったと思われる。

「作ること、そのものに価値がある」という農閑工芸のひとつの定義から、作る喜びを直接的に感じられる表現・方法を考えた。

枝とインシュロックのみの簡単な作り方を採用した結果、行為が直接造形となるため、グループワークでありながら、それぞれが積極的に関与できた。

また、作品自体から明快な作り方を見せる事で、鑑賞者が能動的に関わるプランも考えられる。

制作作者達は、「秘密基地」を作ったときのような楽しい時間を共有した。以下は、学生のコメントである。

「un-secret base」

秘密基地を作ったことはありますか。

子供のころ、そのへんにあるもので作ったそれは不格好だけどカッコいい自分たちだけの小さな世界。

私たちはそこにこそ、ものを作るドキドキ感があるのではないかと考えました。台風16号で落ちた小枝。それを集めて作った基地。あの頃は大人たちには内緒だったけど今は私たちの思いを伝える発信基地。



企画：宮原克人

設計：塩満俊彦、中尾文哉

作品：赤木春菜、塩満俊彦、田淵裕基、中村友貴、成田敬、

福田藍、水本隆明

科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 2011-2013

「農閑工芸の研究 - 地域資源を活用した教育プログラムの構築 -」